



うちどくのスズメ

—かほく市学校司書連絡協議会—

令和3年度「うちどく(家読)」活動

かほく市読書推進活動の一環として、市内9小中学校で市PTA連合会主催の「コミュニケーションウィーク」とタイアップし、取り組みを始めることができました。

「うちどくしたよ！」(取り組み事例)を掲示

市内9小中学校の「コミュニケーションウィーク」での「うちどく」の様子を、中央図書館で掲示、ホームページに掲載しました。

「うちどく」の良いところ

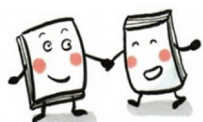
- ★家族で仲良くなれる
- ★感性が磨かれ、想像力が育つ
- ★語彙力や集中力がアップする
- ★一生涯の宝となる読書の力が身につく



「うちどく」への想い

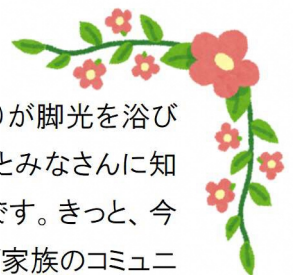
本を通して家族でのコミュニケーションを広げ、会話のきっかけになればと思い、「うちどく」の活動に取り組みました。本を読む習慣がありません、どんな本を読ませたらいいかわからないという方は、かほく市立中央図書館をご活用ください。テーマに沿った展示コーナーや、ティーンズのコーナーを設けております。

(K.K)



コロナ禍の中、再度、うちどく(家庭読書)が脚光を浴びてきました。「うちどく」の良さをもっとみなさんに知っていただき、実際にやってみてほしいです。きっと、今よりもっと「うちどくってすてきだな」、「本が家族のコミュニケーションツールになるんだ」など、一人でも多くの方に感じていただけると嬉しいです。「うちどく」について、もっと知りたい方や興味のある方が増えたらいいと思います。なお、来年度もうちどく活動は継続していきますのでよろしくお願いします。

(A.A)



家にいる時間は増えた気がするのに本を読む機会が減っているかも…。タブレットや携帯を何気なく見ているだけ、という人もいるのではないでしょう。私自身、手からスマホを離すことができませんが、読書した後は物語の世界に浸ることで得られた充実感、また、本を通して家族とのコミュニケーションがとりやすくなったことも事実です。そして、それらはかけがえない財産です。本は、たくさん冒険や、タイムスリップもできます。子供も大人も絵本、旅行記、怖い話や写真集など楽しめます。さまざまな本の中から手に取って読んでみませんか？本選びの参考になる、文部科学省のHPもおすすめです。思い立った時にぜひ「うちどく」してみましょう。(M.N)

ゲーム→読書、無理？

みなさんは、ゲームにはまっているお子さんを読書に誘うのは無理だと思っていませんか。読書はいいってわかっているけれど、ゲームの前から離れない、そんなお子さんを読書に誘う方法をいくつか考えてみました。

- ゲームを取り上げる→反発される×
- 本が手軽にとれる環境をつくる
→お金がかかる？図書館へ！！◎
- ゲームの攻略本を買う→本は本でも？！△
- 子供の近くで下の子に読み聞かせを始める
→意外に聞いているかも○
- 以前自分がハマった本の話をも身近な人とする
→聞いていれば効果がある？△
- 自分が本を読み始め、集中する→その姿をいいと思ってくれるかどうかにかかっている！○

みなさんは、ほかにどんな方法があると思いますか？

(N.S)



本選びに迷ったら…参考にして！

★かほく市中央図書館へ！

★文部科学省子ども読書の情報館

<https://www.kodomodokusyo.go.jp/>

★文部科学省子供の読書キャンペーン

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyus-hien/campaign_2021.html

★うちどく.com

<http://uchidoku.com/htdocs/>

「うちどく」をすすめるにあたって、「中学生は忙しくて、平日の読書は難しい…」という意見も耳にしました。じゃあ週末だったら？日頃は勉強や部活で忙しくても、たまには読書で心のひとり旅に出ておいで、というのはどうでしょう。新聞の興味ある記事を親子で読み、話す。それも読書です。ほんの少しの時間でも、自分をリフレッシュさせたり、言葉の使い方を知って自分の引き出しを増やしたり。楽しみの時間を一つ作ってあげませんか。

